

令和6年度

前期日程

韓国語問題

(注意)

1. 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、各解答用紙の受験番号欄に正確に記入すること。
3. 問題冊子のページ数は、表紙と白紙を除き5ページである。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用紙は表紙を含めて5枚である。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。
6. 問題冊子の余白は、適宜下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

I. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

問1. 明成皇后本人が残した資料にはどのような価値があるのか、200字程度の日本語で説明しなさい。

問2. 手紙から明らかになる明成皇后像はどのようなものか、200字程度の日本語で説明しなさい。

Ⅱ. 次の文章を韓国語に訳しなさい。

①

著作権処理中のため、公開できません。

②

朴正熙政権による韓国軍のベトナム派遣や経済協力方式による日韓国交正常化は、先行研究の指摘通り、慰安婦や徴用工といった被害者の救済を後回しにしたことは否めない。しかしそれ以上に、経済協力方式の国交正常化は、市場経済を重視した韓国の野党や世論を醸成し、経済政策からのみ日本を評価し批判する視点を作り出したと言える。日韓国交正常化の前後の期間で、選挙の不正や独裁といった韓国の国内政治体制の限界がいくらあったとしても、韓国の野党、新聞、国民世論は、なぜ経済構造からしか日本を語らなかったのだろうか。日韓経済協力委員会といった、既得権益層の中で決められた経済協力の枠組みが、「経済と日本」という視点をさらに強調したとは言えるが、既得権益層以外でも日韓の閣僚、与野党、被害者救済や民族教育の自由を主張する国民の層でさえも反共・対北朝鮮体制競争にまきこまれて、歴史問題を語り解決しようとする信頼関係の基盤を醸成できていなかったのではないか。日韓定期閣僚会議は、経済問題から議題の領域を広げた交渉の土台となり、定期的に交渉をする場として機能した。しかし、定期会議で韓国側から提起された北送問題や樺太在留韓国人の引揚げの問題は、日韓で意見の対立する案件として議題から除かれ日韓の外交問題としての設定に失敗した。そして意見の相違をめぐる日韓の外交交渉は公式会談で論じられる機会を失った。

【長澤裕子「日韓国交正常化後の両国交渉と歴史認識の外交問題化」
吉澤文寿編著『歴史認識から見た戦後日韓関係』, 社会評論社(2019)】

③

学校の門の前で待っていると、おかんが到着した。和髪が綺麗にセットされ、訪問着の着物姿もあでやかだが、車から降りるなり、眉間にシワを寄せながら、僕をうながして一目散に職員室へ向かった。

おかんは職員室に入るなり怒鳴った。

「おらー！ 中島出てこい！！！」

職員室中の先生が驚いておかんに注目する。しばらくして、中島先生が現れた。

着飾った着物でおかんは吠えた。

「なんでサインせえへんねん。しかもこの子のやってることが遊び言うたらしいな？」

すると、中島先生も喧嘩腰でおかんに言う。

「はい。こんな大事な時期におもちゃで遊ぶために海外に行くなんて副担任として許可できませんね。私は教師としての責任がありますので」

おかんは少し声を落として言った。

「そうか。お前にはこの子のやってることはおもちゃで遊んでるように見えるんやな」

中島先生は、おかんに説教めいた言葉を返す。

「あなたも母親らしく、お子さんのためにビシッと厳しく言ってあげたらどうですか」

おかんは僕の目を見ながら言う。

「この副担任の言う通りやわ。だから今、あんたのためにビシッと言うたるわ」

中島先生の言う通り、おかんは僕に、アメリカに行くことを諦めるよう告げるのかと思っただ、おかんは中島先生に向かって啖呵を切った。

「おい。今から言うこと真剣に聞けよ。お前さっき教師としての責任があるって言うたな？ わしにはこの子の母親としての責任とプライドがあるんや。お前がどうしてもサインせえへんのやったら、この子の養育費とお前の家族全員の生活費を一生保証したるから、この子の面倒を一生見てくれるか？ 母親以上の責任がないんやったら今すぐサインしろ！」

中島先生は黙ったまま動かない。

痺れを切らしたおかんは

「さっさとサインせんかい中島！！！」

七三分けは同意書にサインをした。

それを見届けると、職員室を出る前におかんは中島先生に丁寧に詫びた。

「息子のためにお騒がせして申し訳ないです。息子のやってることが遊びに見えてるのでしたら、それはまだ息子の真剣さが足りないからかもしれません。それは母親である私の責任でもありますので、この子にはもっと努力するよう言い聞かせます」

前を歩くおかの西陣織の帯が揺れている。

将来、必ずプロのパフォーマーになる。

そう決めた。

【ちゃんへん、『ぼくは挑戦人』、ホーム社(2020)】

Ⅲ. 次の文章を日本語に訳しなさい。

①

청소를 하려고 연희의 방에 들어갔다가 해외 입양인들의 수기와 소설, 연구자들의 논문과 보고서 등으로 잔뜩 어질러져 있는 책상을 보았을 때 혜순은 망연 자신했다. 식탁에 마주 앉아 밥을 먹다가 존 터너의 비극적인 삶이 안타깝고 슬프다고 말했던 연희가 그의 이야기를 작품으로 쓰려고 자료를 모으고 있는 줄은 짐작도 하지 못했다.

혜순은 딸이 해외 입양인들의 삶에 관심을 기울이고 작품으로 쓰려고 하는 까닭을 알 수 없었다. 아프고 고통스러운 그들의 삶을 감당해 낼 만한 경험이 없고 나이도 젊은 연희가 왜 하필 생부모에게 버려지고 해외로 입양되었다가 추방되어 돌아와 스스로 생을 마감한 비극적 인물에 몰두하는지 이해하기 어려웠다.

【서성란(2023) 「내가 아직 조금 남아 있을 때」 『2023 제 46 회 이상문학상 작품집』, 문학사상】

②

관용 표현은 한국 문화와 역사에 대한 인식도 함께 이루어져야 이해도가 높아질 수 있다. ‘국수를 먹다, 발이 넓다, 바가지를 긁다, 개가 쏘아지다’와 같은 관용 표현을 어휘의 순수한 뜻으로 해석한다면 올바른 이해를 할 수 없게 된다. 예를 들어서 ‘국수를 먹는다’라는 표현을 단순히 각 어휘의 뜻 그대로 받아들인다면 음식으로서 국수를 먹는다는 의미밖에 없다. 그러나 예로부터 한국에서는 결혼식에 온 손님들에게 국수를 대접해 왔기 때문에 ‘국수를 먹는다’는 표현은 결국 결혼식을 올린다는 뜻이 됐다는 것을 알려 주면 한국 문화도 이해하고 그 관용 표현의 의미도 정확하고 빠르게 이해할 수 있다.

【한재영 외 (2005) 『한국어 교수법』, 태학사】

③

근대적인 문화 향유는 문자적인 데에서 시각적인 것으로 옮겨갔다. 근대기에 상륙한 영화는 당시 조선인들의 혼을 빼놓았다. 전문적인 영화 상영관이 세워지고, 미국영화와 일본영화가 판을 치는 가운데 조선영화도 상영되었다. 북촌에는 조선극장, 단성사, 동양극장, 우미관 등이 있었고 남촌에는 황금좌, 명치좌, 악초극장 등이 있었다. 1926년 〈아리랑〉의 나운규 감독의 출현은 당시 조선영화의 상징이 되었다.

공연예술은 근대식 극장을 통해 발전했다. 전통공연예술을 비롯하여 신무용, 신연극 등이 극장 무대에 올랐다. 구중심치의 아악이 무대에 오르기도 했고, 최승희는 신무용으로 조선을 넘어 세계의 무희가 되었다. 진보적인 연극단체의 실험적인 연극도 경성의 공연예술의 한 부분이었다.

【서울역사박물관 (2013) 『600년 서울을 담다 / 상설전시도록』】